

---

 書 評
 

---

## ビデオ教材その2

## NHK特集

## 『30億光年の宇宙——大望遠鏡で見た銀河の驚異』

50分, 12,800円 (製作: NHK, 発売: 東映ビデオ(株), 解説: 小尾信弥)

これは昭和53年7月7日にNHK特集として放送されたものの録画で, 一般書店で手に入るが, 試聴はできない。

まずビデオの箱にある説明文によると,

‘アメリカのキットピーク国立天文台との協力により, 世界最大級の4m反射望遠鏡に超高感度テレビカメラを直結する画期的な技術で, 銀河系の星雲や, 望遠鏡のとらえうる限界ぎりぎりに, はるか遠い銀河の姿を写しだし星と宇宙の驚異を紹介する。’

内容は, 7月7日に放映されたことから想像できるように, 星ぞらや天体の美しさを楽しむものである。一言でいえば, キットピークを訪問した一般の人が, 小尾先生の解説をききながら, いろいろな天体をながめている感じである。

始まりはキットピークのドーム群で, 太陽望遠鏡のつくる大きな太陽の像をチラチラみながら, 夕方の美しい景色を音楽とともに楽しもう。そして夜空に星が見えだして, 木星やアルビレオが望遠鏡の視野に入る。リンズ女史と七夕の話をしてから, 天の河をながめる。球状星団, 散開星団, 干潟星雲などをみて, 2.1mと4mの望遠鏡で同じ球状星団を見くらべる。リング星雲は3色のフィルターをつかったものを重ねてカラーにして見せてくれる。それから星の進化のお話にそって暗黒星雲から超新星爆発までにあたる天体をいくつか見る。ベテルギウスの大気構造(円盤のなかの分布)を擬似カラーでみるのはめずらしい。それからうずまき銀河や銀河団を楽しむ。うすすらしたりゅう座の銀河集団はこの望遠鏡でみえるぎりぎりの30億光年の距離にある。

以上でわかるようにこのビデオは文科系の学生むきである。ひたすら天体の美しさを楽しむもので, 科学的な説明はほとんどない。いまNHKで放映している地球大紀行もそうだが, 時間のわりには内容の盛りこみかたがいまいちなので, 講義時間を50分もとられるのはもったいないと思う人もいるだろう。それは, もともと教養番組としてつくられたものを講義で使おうという根性が悪いのである。できれば30分くらいのダイジェスト版をつくってもらえないだろうか。私は文科系むけの講義

でこのビデオを使ってみたが, おおむね好評だった。実際に望遠鏡をみているような臨場感があるためと, このところ講義で難しい話がつづいたあとだったからだろう。ただしスライドがたくさんあれば, このビデオの内容は自分で手みじかに講義することができる。またうたい文句の30億光年というのは少々オーバーで, 本当に30億年に関係しているところは終りの3分程度である。なお夜空を美しく上映するためには, 教室が完全に暗くなったほうがよい。(加藤万里子)

---

 雑 報
 

---

## 第4回岡山ユーザーズ・ミーティング報告

第4回岡山ユーザーズ・ミーティング(東京天文台岡山天体物理観測所・光天連ユーザーズ・コミッティ共催)が, 1987年8月26日, 27日の両日に亘って観測所の地元である岡山県浅口郡鴨方町町民会館で開かれました。技術シンポジウム・シュミットシンポジウムと連続して開催され, のべ83名が出席しました。今回のユーザーズ・ミーティングでは, 東京天文台が国立共同利用研に改組拡充される時期であるため, 観測所の運用についての議論と, 今年度予定されている188cm望遠鏡駆動制御系の改修についての議論が重点的におこなわれました。清水実副所長からステータス・レポートとオブザーバズ・レポートのまとめがあり, その中で来年3月一杯は望遠鏡改修のため188cm鏡の利用を行わない旨の提案がありました。188cm望遠鏡改修の具体的内容について, 渡辺悦二氏(岡山観測所)から報告がありました。主として, (1)老朽化した望遠鏡駆動系の交換, (2)望遠鏡位置表示の高精度化, (3)望遠鏡制御系の改修—計算機ネットワークとシーケンサーの利用が提起されました。舞原俊憲氏(京大)からは188cm望遠鏡の赤外仕様についての提案があり, これらをうけて活発な議論がなされました。牧田 貢氏(東京天文台)は, 太陽マグネトグラフの現況とその一年の成果について報告しました。西村史朗氏(東京天文台)は, 岡山での機器開発についての今までのまとめと問題点を整理されました。総合討論(司会 前原英夫, 定金晃三, 平田龍幸各氏)では, (1)岡山観測プログラムの編成, (2)機器開発, (3)共同利用について今まで以上の活発な議論がなされました。プログラム相談会メンバーの推薦がなされ, 機器開発については, 宇宙研での装置開発の現状を例に, 国立研下での新装置の提案, 採択, 制作, 評価についての議